



中国における都市社会空間構造の変容 — 単位空間を中心に —

楊, 岩

(Degree)

博士 (学術)

(Date of Degree)

2012-03-25

(Date of Publication)

2012-10-25

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲5569

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1005569>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



論文内容の要旨

氏名 楊岩
専攻 人間環境学
指導教官氏名 山崎健

論文題目 (外国語の場合は、その和訳を併記すること。)

中国における都市社会空間構造の察察：単位空間を中心に

論文要旨

本稿で扱う都市社会空間とは社会的に構築された都市空間の総称であり、具体的には、住宅地や大学等の物理的空間と住宅制度や戸籍制度等の制度的空間を包括するものである。一方、都市空間は一定地域の経済・政治・文化の中心をなす空間的広がりであり、道路、工場や住宅等の物理的空間を指すものである。

また、単位 (*danwei*) とは、社会主義中国設立後の都市で生まれた独特な組織形態であり、都市住民の就業及び生活の主な場所であり、農村地域在住の農民が享受できない多様な福祉を提供するものである。共産党政権のもとで、単位に関わる一連の制度は社会主義中国の都市を実質的に管理し、単位空間は中国都市のもっとも普遍的な空間形態となった。単位はその規模や種類こそ異なるものの、改革開放政策が実施されるまで、ほとんどの都市住民を包括し、彼らの日常生活を規定していたし、自らの敷地をもって都市空間を分断していた。市場経済体制の導入に伴い、政治的、文化的、経済的資源に対する単位の独占状況が打破され、単位制度が弱体化しつつある。単位は従来、もっぱら従業員に対して各種サービスを提供してきたが、経済性を重視するようになるにつれ、主要事業と関係のないサービス部門を委託、閉鎖もしくは売却し、サービス対象を都市住民全体まで拡大する措置を取る。それに伴う単位空間の再編が進み、職住近接性の低下や外部者利用の利便性の向上などの傾向が顕著化しつつある。このような変容にもかかわらず、単位空間は依然として中国の都市空間の基礎としての意義を失っておらず、人々の生活に対して多大な影響力を維持している。

1978年11月、社会主義中国はそれまでの計画経済路線を放棄し、市場経済体制への移行を特徴とする経済改革計画を実施し始めた。それに伴い、政府は社会諸制度の見直しを行い、経済発展を最優先する方針を立てた。その影響を受け、中国の都市社会空間構造は大きく変容し、中でも単位を中心とする従来の都市において支配的であった制度が解体しはじめたことは注目に値する。そこで、筆者は本稿においてこうした都市社会空間構造の変容に焦点を当て、単位空間を中心に考察する。

都市社会空間構造に関する従来の研究は示唆に富むものが多いものの、伝統文化と都市空間の継承に関する議論がほとんどなされていない。一方、単位に関する従来の研究に限って言えば、社会学や政治学分野のものが多く、単位がもつ空間的特徴に注目したものが少ない上、伝統文化と単位空間との関係を考察したものがほとんどない。

空間は様々な観念の複雑な集合を表示する抽象的な言葉である。空間の表現は文化の違いによって異なっており、文化は都市空間のみならず社会全般に対して広汎にわたって強い影響力をもつと言える。中国は長い歴史の中で独自の文化を形成し、中でも家に関わる伝統思想が注目に値する。中国社会の基礎は家である。それは、中国の伝統文化の中で社会の最小構成単位が家であり、個人ではないからである。中国人はすべてにおいて家を本位にするのである。中国人が非常に家を重視することの背景には儒教の影響が大きい。このような独自の文化が中国社会に多大な影響を与えていることが言うまでもない。

一方、権力も中国の都市社会空間構造に大きな影響を与えているのである。中国の経済発展は絶対的権力をもつ共産党政権による諸改革の推進によりもたらされたものである。言い換えれば、権力側が諸改革を主導して経済発展を図るとともに自らの地位を維持する。もちろん、権力側は自らに有利なように諸政策を推進するが、それが権力を持たない者にとっても有利であるとは限らない。なお、「上には政策あれば、下には対策あり」ということわざから一瞥できるように、権力をもつ者と持たない者との駆け引きは中国社会のどの時代においても存在する。権力側が打ち出した諸政策に対し、権力を持たない者は自らに利益をもたらすことができなくても、不利益を極力軽減させるために対策を考案する。こうした駆け引きは都市空間に対して大きな影響力をもつものである。

したがって、本稿では単位空間を中心に、「家」という文化的要素と「権力」という2つの視点から中国の都市で進行している急激な空間的及び社会的変化を分析したい。その際、筆者は都市社会空間構造の変容に関する議論を通じて以下の3点について検討したい。

①家及び権力は互いに深く関連しており、単位空間という形で社会主義中国の都市に反映されている。

②家及び権力の関係を象徴的に反映した単位空間は社会主義中国の都市空間を構成する基礎的な空間であるとともに、封建時代の中国の都市空間を構成する基本要素を継承したものである。

③単位は改革開放政策の実施に伴って変容しつつあるが、依然として中国の都市社会に対する強い影響力をもつことに変わりがない。

本稿において筆者はまず都市社会空間構造に関する従来の研究を概観し、本稿の位置づけを示した上で、単位の概念、起源、機能や家との関係などについて分析した。次に、中国の都市空間の特徴を見出すために、筆者は現存の文献資料に依拠し、封建時代の中国都市及び社会主義中国の都市を取りあげ、両者の特徴、権力との関係や壁などを考察した。さらに、筆者は住宅制度改革を概観し、その内容や特徴を把握した上で、権力が行った住宅制度改革がもたらした問題点、単位従業員の住宅状況及び住宅意識の変化を検討した。

最後に、出稼ぎ労働者と大学生の生活環境について分析を行い、権力が出稼ぎ労働者及び大学生に与える影響について議論を加えた。

こうした考察を踏まえた結果、単位は共産党政権が都市を管理する媒介でありながら、擬制的「家」として強調することや家父長的秩序を維持する点においては従来の社会組織と共通していることが分かった。したがって、単位は社会主義中国になってはじめて現れてきたとはいえ、中国の伝統社会とは無縁のものではなく、むしろ中国の伝統思想の影響を受け、従来の組織形態を継承したものとして考えるべきである。

また、社会主義中国の都市は封建時代の中国都市の空間秩序を継承したものであり、統治者階級の利益を反映するものであることが分かった。とりわけ、壁という存在が長きにわたって継承されてきたことが明らかになった。封建時代の都市の城壁は毛沢東政権のもとで取り壊されたものの、代わりに戸籍制度や単位制度など制度的な壁と単位の敷地を取り囲む物理的な壁が出来上がった。改革開放政策の実施に伴い、中国の都市は新たな変化を呈しはじめ、旧来の壁は解体に向かいつつあるが、住宅地の壁は中国の都市を空間的・社会的に分断する新たな壁となった。壁は単なるセキュリティのための存在ではなく、内と外を分断することで内部の秩序を維持する役割を果たすものであると、筆者は述べた。

さらに、住宅制度改革に関する議論から看取できるように、単位は住宅市場体制が導入されたにもかかわらず、住宅と深い関わりを持っており、その関与方法を変えたにすぎないのである。したがって、単位制度が弱体化しつつあるとはいえ、単位は変容しながらも依然として中国の都市社会に多大な影響を与えていると考えるべきである。

本稿は「家」という文化的要素に注目し、単位空間をはじめとする中国の都市空間と家とが関連性をもっていることを指摘したが、今後は文化的要素と都市空間との関係について更なる考察を行いたい。とりわけ大きな変革を経験している中国においては文化的要素と都市空間がどう影響しあうかは注目に値する課題である。経済的・社会的状況が急速な変化を遂げる中、人々はどうのような文化的要素を重視しているのか。そしてこうした文化的要素が人々の意識や行動にどのような影響を与えているのか。こうした課題に取り組むためには都市住民を対象とした意識調査が不可欠であると、筆者は考えている。本稿では住宅に関する単位従業員の意識変化を検討したが、今後は単位従業員に限らず、都市住民全体を対象に、生活全般に関する意識調査を行いたい。そしてそこから抽出した文化的要素と都市住民を取り囲む空間との関連性を見出したい。

論文審査の結果の要旨

氏名	楊 岩		
論文題目	中国における都市社会空間構造の変容 —単位空間を中心に—		
判定	合格・不合格		
審査委員	区分	職名	氏名
	主査	教授	山崎 健
	副査	教授	浅野 慎一
	副査	教授	岡田 章宏
	副査	教授	和田 進
	副査	准教授	澤 宗則
要 旨			
<p>本論文は従来の中国の都市社会空間構造の研究において、そのアプローチがほとんどなされていない社会空間のもつ社会的・文化的意義の観点から、新中国成立以降の都市社会空間の基礎である単位空間に加えて、改革開放政策以降に形成された城中村や住宅小区などの新たな社会空間の変容にも注目し、その社会的・文化的意義を明らかにしたものである。</p> <p>文化的意義を検討する際には、封建時代からの儒教思想にもとづく中国社会の最小構成単位、倫理規範の中心、かつ風習慣行の原点、社会組織の要である「家」に注目し、また社会的意義を検討する際には、「権力」をとりあげ、この2つの視点から中国における都市社会空間構造の変容に考察を加えている。</p> <p>さらに本論文では、上記の研究目的を達成するために、3つの仮説を設定して考察を進め、それらを検証している。以下に記す3つの仮説の観点およびその検証結果は、従来の中国の都市社会空間構造の研究にはない貴重で新たな知見をもたらすものであり、これらの点にも本論文の獨創性があるものと評価される。</p> <p>① 「家」及び「権力」は単位空間という形で社会主義中国の都市に空間的に投影されており、家及び権力を象徴的に反映した単位空間は社会主義中国の都市社会空間を構成する基礎的な空間であるとともに、封建時代の中国の都市社会空間を構成する基本要素を継承したものである。</p> <p>② 単位空間は改革開放政策の実施に伴って変容しつつあるものの、中国の都市社会空間に対して強い影響力を維持している。</p>			

③ 制度改革によって都市において新たに形成された城中村や住宅小区という社会空間は単位空間と異なる特徴をもつものの、単位空間と同様に、その七「家」及び「権力」を反映した社会空間を構成している。

本論文はまず、序章において、改革開放政策実施以降の中国の都市社会の変化を概観した後、都市社会空間構造に関する先行研究を整理し、従来の研究では文化的視点に注目した研究がほとんどないこと、また、概念的にその重要性を論じた数少ない研究はあるものの、新中国成立以降の都市社会空間の基礎を構成してきた単位空間をとりあげ、その社会的・文化的意義についての実証的分析は全くなされていないことを指摘し、本論文が中国の都市社会空間構造研究において、大きな意義を有することを論じている。

第2章では単位に関して、その概念、起源、機能とその近年の変容、および単位と「家」との関係について論じ、単位は中国の封建時代以来の伝統社会の基礎である「家」という文化的要素の特徴を継承したものであるとの見解に論及している。第3章では文献資料に依拠し、封建時代と社会主義時代の中国都市の社会空間について、「権力」との関係の観点から比較考察を試みている。第4章では、住宅制度改革によってもたらされた問題点について検討し、江蘇省連雲港市における新たな社会空間である住宅小区における単位従業員に関わる住宅状況及び居住意識の変化を調査し、そこには依然として、「家」という文化的要素が継承されていることを明らかにしている。第5章においても、改革開放政策以降に形成された都市社会空間の1つである南京市の城中村を事例として、その社会空間には「家」という文化的要素の影響が強く存在することを指摘している。

本論文は、「家」及び「権力」という2つの視点から、単位空間を中心に、新中国成立以降の中国の都市空間構造の変容について検討を加えたものである。社会主義中国における基礎的都市社会空間である単位空間さらには、改革開放政策以降に形成された城中村及び住宅小区という社会空間においても、封建時代からの中国の都市空間の主要な形成要素である「家」という文化的要素や「権力」という社会的要素が、その作用の仕方を変容させつつも、社会空間構變動に依然として大きな意義をもつことを明らかにしたものである。これらの新たな知見は中国の都市社会空間構造研究において、従来その重要性は指摘されつつも、未解明であった文化的観点から実証的な研究成果であり、この研究領域の学問的發展に大きく貢献する研究成果であると評価される。

よって、本審査委員会は、学位申請者の楊岩が博士(学術)の学位を得る資格があると認めるものである。

なお、学位申請者は、下記の通り、審査つき学術論文3本を発表しており、博士学位申請の基本的条件を満たしている。

- ・ 楊岩(2009)：南京市・紅山街道城中村における農民工の生活空間，都市研究，第9号，125-140。
- ・ 楊岩(2010)：中国の都市空間における「単位」—その起源、機能と変容—，都市研究，第10号，135-144。
- ・ 楊岩(2012)：中国における住宅制度改革—単位従業員の住宅状況及び住宅意識の変化—，神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要，第5巻第2号(掲載受理、印刷中)